

# 環境研究・環境技術開発の推進戦略 及びフォローアップ

→推進戦略(平成22年6月中央環境審議会答申)に従い環境研究・技術開発を推進。  
フォローアップ(平成24年7月上旬目途)を実施することにより、重点的に取り組むべき課題を特定。

## 基本的考え方

- 環境が経済や社会を牽引する「環境主導社会」へ
- 中長期の「あるべき持続可能な社会の姿」を念頭に置いた研究開発
- 世界トップレベルの環境技術を活かした「世界への貢献」
- 技術を「社会実装」させ、イノベーションを目指す

## 17の重点課題

- 全領域共通(3テーマ)
- 領域横断(3テーマ)
- 個別領域
  - ・脱温暖化(4テーマ)
  - ・循環型社会(3テーマ)
  - ・自然共生(2テーマ)
  - ・安全確保(2テーマ)

## 推進方策

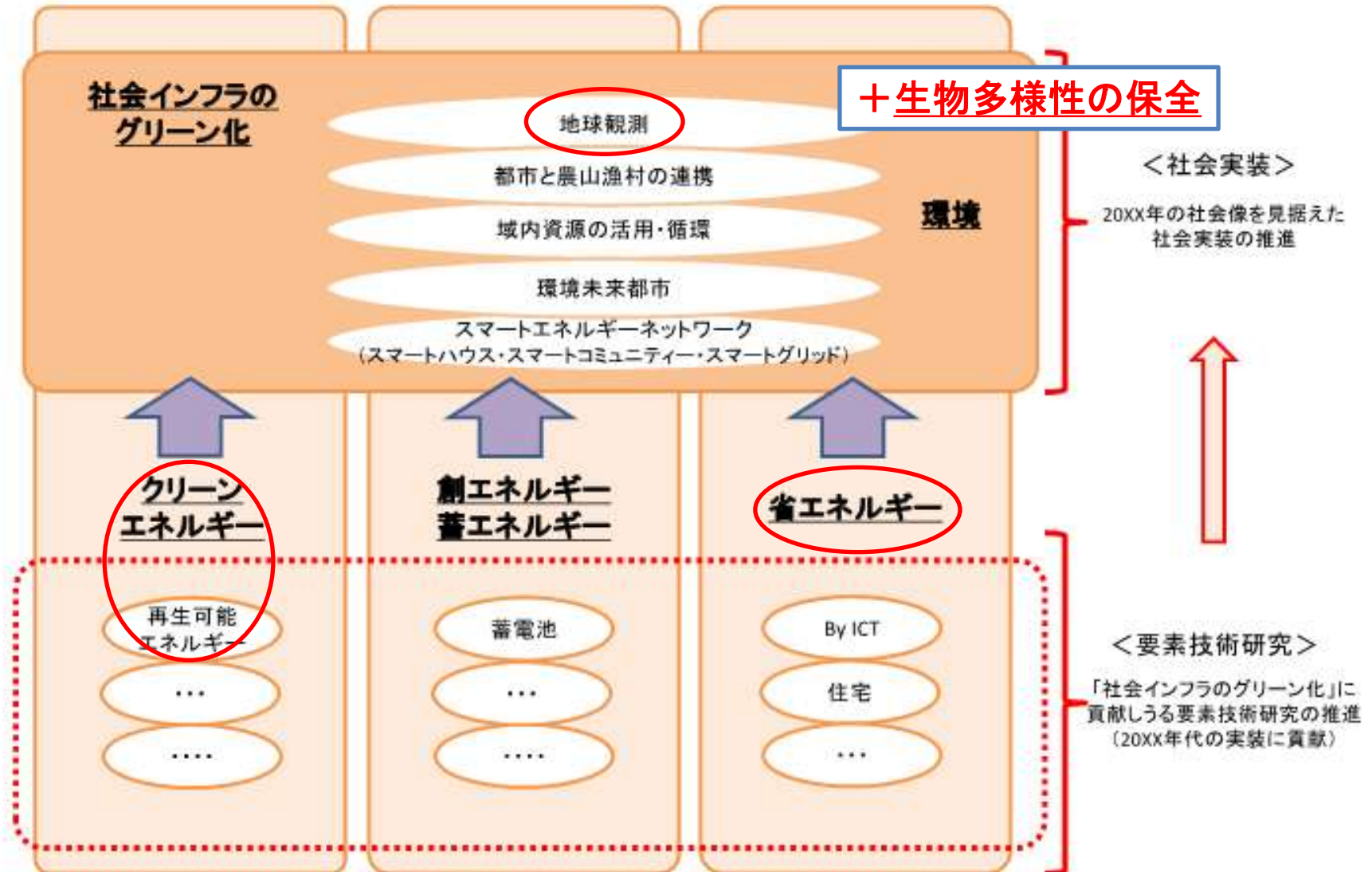
- 競争的研究資金におけるトップダウン型研究・領域横断型研究の拡大  
政策への直結、研究側からの政策提言、分野間(学会、産業界等)の連携によるイノベーション
- 国立環境研究所の中期目標・中期計画への反映  
中長期を見据えた計画的な政策貢献、社会実装のためのシナリオ策定、知的基盤の整備
- アジア等世界との共同研究、国際的な枠組みづくり  
国際機関等への貢献、環境技術・システムの移転による世界への貢献と環境ビジネスの活性化
- 地域との連携、国民へのわかりやすい研究成果の発信  
地域研究の活性化、地域住民への浸透、地域経済への貢献、環境技術・システム・環境政策の国民への浸透

- 毎年度の着実なフォローアップによるPDCA  
フォローアップ結果の競争的資金等への反映により、時宜に即した研究開発

- ・第1回フォローアップ  
→平成23年7月に実施
- ・第2回フォローアップ  
→現在実施中

# 現状の検討状況

## 平成25年度アクションプラン骨格のたたき台



◆ 洋上風力発電は大きな期待を集める再生可能エネルギー

○我が国は、排他的経済水域世界第6位の海洋国であり、洋上には陸上に比べて大きな導入ポテンシャル

○洋上は風速が高く、その変動が少ないため、安定かつ効率的な発電が見込まれる

◆ とりわけ、水深が浅い海域が少ない我が国では、深い海域(50m以深)に適用可能な浮体式が期待されている

我が国初となる、フルスケール(2MW)の浮体式洋上風力発電実証機の建造・設置・運転

## H22-23年度の事業成果

### ①実施候補海域の選定

周辺漁協・住民の賛同・同意等から長崎県五島市柁島沖を選定(陸から約1km、水深約100m)



### ②基本設計の決定

様々な浮体式プラットフォーム形式の中から、コスト面、海底地盤適応性等により、スパー型を選定



## H24-27年度の事業計画

	H24	H25	H26	H27
環境調査	→			
小規模試験機(100kW)の実海域設置・運転	→			
実証機(2MW)の実海域設置・運転		→	→	→
事業性等の評価				→

成果を反映(設置、制御等)



2MW実証機の完成予想図  
[H24年度に建造に着手]

(100kW小規模試験機は、H24年6月初旬に設置・7月運転開始予定)